

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年10月2日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻◇(夢つくし、元気つくし、ヒビカリなど)

「夢つくし」の収穫はほぼ終了しました。穂数は平年よりやや多いですが、トビイロウンカの被害や登熟不良により、収量は平年並み～やや少ないです。品質は、8月の高温障害の影響で平年より低いです。

現在、「元気つくし」の収穫中で終了は10月6日頃の見込みです。7月の日照不足の影響で穂数がやや少なく、台風9号、10号の影響と9月の日照不足、トビイロウンカにより充実が不足し、収量は平年よりやや少ないです。「ヒノヒカリ」の収穫は10月3日頃から開始される見込みです。トビイロウンカの発生は、過去10年で最も多く、「夢つくし」を中心に坪枯れが多いです。

早期落水は充実不足を助長するので避けましょう。成熟期に達した「元気つくし」は、直ちに収穫しましょう。「ヒノヒカリ」以降の品種は、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して収穫を開始しましょう。トビイロウンカは、ほ場での発生状況を確認して、対策を徹底しましょう。特に中晩生品種は発生状況に注意しましょう。坪枯れが発生した場合、可能な限り収穫を早めましょう。

◇大豆(フユタカ)◇

現在、莢伸長期～子実肥大期です。播種時期が遅れたことにより草丈はやや低いです。台風9、10号に伴う強風により、一部地域では倒伏や潮風害の発生が見られます。播種が遅れたことや開花期以降の多雨、日照不足の影響で、莢数は平年よりやや少ない傾向です。ハスモンヨトウの発生は少ないが、一部、葉焼病が発生しています。雑草は、大豆の生育が遅いほ場や連作田で多発しています。

排水口を整備してほ場の表面排水を促しましょう。本年は、降雨が多いため、紫斑病の対策を徹底しましょう。カメムシ類は発生状況に応じ、対策しましょう。雑草は早めに除去し、ほ場内への雑草種子落下を減らしましょう。

◇青ネギ◇

生育は概ね順調ですが、7月の豪雨でまき直した影響が続いており、現在の出荷量は例年に比べて少ないです。10月中旬以降、例年並みに回復する見込みです。台風10号でビニル破損したハウスでは倒伏や葉傷みが見られます。チョウ目の発生が散見されますが、全体に病害虫の発生は少ないです。

かん水過多は、徒長を誘発するので土壌水分管理に注意しましょう。チョウ目およびアザミウマ類等の害虫対策を徹底しましょう。

◇施設キュウリ◇

抑制作型は8月上旬を中心に定植。定植直後は高温による萎れが見られましたが、8月中旬以降の夜温の低下により草勢は回復し、現在の生育は順調です。高温による着花不良等により9月上中旬の出荷量は例年に比べて少なかったですが、現在は例年並みまで回復しており、12月上旬まで出荷されます。コナジラミ類、アザミウマ類の発生は少ない。9月上旬にハスモンヨトウが多発傾向でしたが、防除により抑制されました。促成作型は10月上旬から定植を開始、定植ピークは10月中旬となる見込みです。

黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマや、退緑黄化病を媒介するタバココナジラミの対策を徹底しましょう。促成作型は定植前に防虫ネットの設置状況の点検を行いましょう。うどんこ病、褐斑病、べと病の対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇

現在、出荷終盤です。梅雨の長期化による裂果、晚腐病等の病気の多発に加え、梅雨明け後の少雨により果粒の肥大が鈍いです。最終的には前年、平年より出荷量は少なく、出荷終了は前倒しになる見込みです。

果実の熟度や天候、病害の発生等を考慮し、適期収穫に努めましょう。収穫後は、礼肥を早期に施用するとともに、べと病、トラカミキリ等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「レインボーレッド」は9月25日から27日に収穫でした。かいよう病の発生による園地の減少等により収穫量は前年より少ないです。

「甘うい」は、10月上旬から中旬にかけて収穫予定です。出荷量は210t程度と前年並みの見込みです。長雨後の高温乾燥による根傷み、葉の損傷、早期落葉等の影響で一部の園地では早期収穫の予定です。

「ヘイワード」は、11月上旬から収穫予定です。結実は前年・平年より少なく、肥大は並み～やや小で推移しています。「甘うい」同様、気象の影響で、日焼け果や空洞果の発生、肥大不足などが懸念されます。出荷量は前年より少ない見込みです。

収穫果実は、果実温が上がらないように日陰に置きます。また、高温乾燥や台風等で落葉程度が激しい樹については、日焼け果や空洞果の発生に注意しましょう。果実が濡れると、腐敗しやすくなるため、雨天の日には収穫しないようにしましょう。

◇施設ギク◇

大雨や台風により、倒伏等若干の影響はあったものの、夏季高温による9月出荷分の奇形花発生は比較的少ないです。11～12月出荷作型の生育はおおむね順調。現在、11月初旬出荷の花芽分化期です。「精の一世」の作付増加により、夏秋ギクと秋ギクの品種切り換え時期は11月中下旬の予定です。

ビニル被覆前には病害虫対策を徹底しましょう。早めに被覆準備を行い急な冷え込みに備えましょう。夜温は、電照期間中は12℃、消灯前後は15℃を確保しましょう。ウイルス伝搬を抑制するため親株へのアザミウマ類の対策を徹底しましょう。

◇ガーベラ◇

平成30年から毎年、夏季大雨により定植後に株枯れし、出荷量が大きく減少しています。2年連続被害にあった産地は作付面積が減少する見込みです。令和2年2月までは高単価で推移しましたが、新型コロナウイルスの影響で3～4月は低下したため、通年では前年並みの単価となりました。5月に新植した株が8月から収穫開始。病害虫の発生は少ないです。

アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病、灰色かび病の発生が増加するので、対策を徹底しましょう。10月中旬には二重被覆等の準備を行い、急な冷え込みに備えましょう。

◇肉用牛◇

枝肉単価は和牛去勢が前年比87%、過去5年平均比85%と新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響による外食需要の低迷が続いています。省令価格についても、前年比85%、過去5年平均では87%と低調です。

疾病の発生を予防するために農場衛生管理を徹底する。サシバエが増える時期で、発生状況に応じて対策しましょう。台風9,10号による畜舎屋根等の破損は、速やかに補修を行いましょう。飼料イネにトビイロウンカの発生がある場合は、可能な限り収穫を早めましょう。